JID NEWS
社団法人　日本インテリアデザイナー協会月報
1993 9・10

IFI '95 NAGOYA

インテリアー新しいうねりの創造
INTERIORS : NEXT WAVE

＜IFI '93グラスゴー会議を終えて＞

理事長　長　岡　貞　夫

「デザインルネッサンス」をテーマに9月6日から11日までスコットランドのグラスゴーで開催された3団体によるジョイントコングレスは、盛況のうちに無事終了した。全体の登録者数800名のうち、日本からの参加者は150余名（うち100余名はJIDが占めた）。細かいレポートについては担当者にお任せするとして、全体を通じての私自身の感想を申し上げて今回の大会の総括にしたい。

ひと言で言うなら、まさに21世紀に向けてデザイン界も混迷と模索が続いていることを反映した会議であった。4日間にわたって開かれたセッションはテーマの数が24もあったせいか焦点を絞りきれていないという感が拭えなかった。だが、一方では幅広い視野で多面的な討論が展開されたとも言えよう。

今回の参加の主眼は1995年名古屋大会への参加を呼びかけることだったが、その意味では非常に実り多い数日であった。我々は9月7日にJAPAN NIGHT、翌8日のスライドプレゼンテーション、そして11日のIFI総会、と計3回のプレゼンテーションを計画。名古屋大会への参加を積極的にPRした。いずれも成功裡に終わったが、とりわけグラスゴーの市長をはじめIFIの加盟諸団体を招いて開いたJAPAN NIGHTは、予想をはるかに上回る数の人々が来場し大盛況であった。来場者か

目　次

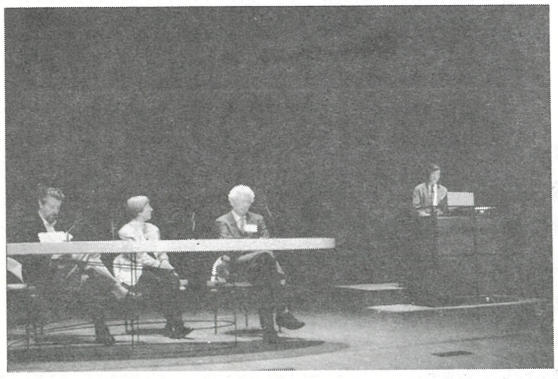
●IFI'93 グラスゴー会議を終えて ……1
・第16回IFI総会報告 ……2
・IFIの理事就任にあたって ……4
・「ジャパナイト」について ……5
・教育会議リポート ……6
・国際デザイン会議のセッションに出席して ……7
・グラスゴー"Design Renaissance" 参加ツアー報告 ……9
・グラスゴー会議に参加して ……10
・九州発台風に追われてのIFIグラスゴー ……10
●平成5年度・デザイン功労者
佐々木達三・渡辺　力両名誉会員ほか2氏に ……11
●創立35年を顧みて ……12
●35年前を顧みて ……12
●次期役員選挙のお知らせ ……13
●本部委員会の動き ……14
・本部及び支部組織委員会から2つのお願い ……14
・通産省検査デザイン行政室との懇談会開く ……14
・自主研究活動登録のおすすめ ……15
・展覧会委員会活動状況 ……16
●事業支部の動き ……16
・初の次期代議員選挙12月に実施 ……16
・関東事業支部国際委員会報告 ……16
・中部事業支部活動状況 ……17
・関西事業支部活動状況 ……18
・「熊本TATAMI」デザインメモリー ……18
●「国際家具デザインコンペ旭川'93」に入賞して ……19
●名誉会員　故石川四郎さん ……20
●関連団体の動き ……21
●会員の消息 ……21
●新入会員の紹介 ……22
●デザインコンテスト　1題 ……24
●会員の異動 ……25
●事務局短信 ……28

らは「名古屋に行くのが楽しみだ」「名古屋大会には大いに期待している」との声が実際に寄せられたことからも、反響の大きさがうかがえる。関係諸氏の努力が実ったわけだが、今回のツアーに参加した JID の会員のホスト、ホステス役も見事な接待ぶりで会場の雰囲気を大きく盛り上げたことを付け加えたい。

今大会のもうひとつの成果はIFI総会の最終日11日に行われた選挙で、国際担当理事の中川帛子氏の IFI 理事就任が決まったことだ。今回の選挙では７名が立候補し混戦が予想されたが、とくに前日のスピーチで具体的な提案を折り込み高い評価を得た中川さんがアジアからの初の理事当選を果たし、最終的には日本、フランス、デンマーク、米国の計４名が新しい理事に選出された。この当選により JID と IFI本部、および加盟各国との関係が一層緊密になるばかりでなく、さらにJIDがIFIの中でリーダーシップを発揮する機会ができたことは名古屋大会に向けてさらに勢いをつける結果となった。中川さんがこの機会を十分に活かし責務を果たせるよう皆様のご理解、ご支援をここにお願いしたい。

今回のグラスゴー大会を振り返ってみて、国際的な会議の成功、不成功を決めるのはやはり個々の人々の力であり、一致協力するということが何にもまして重要である、ということを改めて実感した次第である。こうした経験は95年の名古屋大会でも大きく役立つものと確信している。

最後になったが、多忙のなかグラスゴーまで足を運び PR に尽力下さった名古屋市助役の平岩氏、名古屋商工会議所副会頭の神尾氏、名古屋国際デザインセンター専務の木村氏、JAGDA 副会長の福田氏らをはじめ、準備段階より時間と労力を惜しまず協力頂いた関係者の方々に心よりお礼を申し上げたい。そして IFI'95NAGOYA 開催にむけて、皆様の積極的な参加と活動を再度お願いする次第である。



総会でIFI'95 名古屋を紹介する長岡理事長

第16回　IFI 総会報告

９月５日に始まった３団体ジョイントによる世界デザイン会議“Design Renaissance”のあと、９月10日・11日の両日、第16回IFI総会がグラスゴーの The Royal Scottish Academy of Music and Drama に於いて開催された。

JID からは代表として中川帛子、泉　修二、福田友美の３名、それに通訳を加えて４名の布陣で出席した。また、オブザーバーとして長岡理事長、宇賀理事、外数名が随時参加した。

会議はIFI理事長 R.Linington を議長に、定刻9:30にスタート、同時通訳無しの英語で行われ、まず、理事長のあいさつ、そしてロール・コールから始まった。

その概要は以下のようなものであった。

第一日

１．理事による２年間の事業報告

・総括：Richard Linington 理事長（イギリス）
・メンバーシップ：Claude Berube 理事（カナダ）
・会計報告：Denis Handy 理事（アイルランド）
・教育：Anita Karhunen 理事（フィンランド）
・職能：Hanne Hjort 前理事長（デンマーク）
・情報／コミュニケーション：Janet Schirn 理事（アメリカ）

以上、各担当の事業報告、そして事務局より前事務局長 Liesbeth Hardenberg と新事務局長 Cynthia Wilson による事務報告がありそれぞれ承認された。

２．次期理事立候補者の所信表明

まず、選挙に関する説明がされ、投票は明朝行われると発表されたあと、８人の候補者が順に演壇に立ちスピーチ。

①Denis Handy（SDI アイルランド）
（次の次の理事長候補として、承認のみ）
②Janet Schirn（ASID／IBD アメリカ）再任候補
③中川帛子（JID 日本）以下新任候補
④Pamela Van Duyvenbode（BNI オランダ）
⑤John Harrison（DIA オーストラリア）
⑥Marianne Frandsen（MMI デンマーク）
⑦Young-Beak Min（KOSID 韓国）
⑧Henri Claeys（SNAI フランス）

三番目に演壇に立った中川さんは、たえずほゝえみを

浮かべながら、流暢な英語で態度も堂々としたスピーチぶりで、好印象を与えた。

午前中の会議を終えて、午後はスペシャルイベントとして「IFI 環境フォーラム」と「IFI教育ラウンドテーブル」が行われ、第一日目の会議が終了した。

第二日

3．新メンバーのプレゼンテーションと承認

①ブラジル・ABAID ……承認

②マレーシア・MSID ……承認

③インド・IIID ……代表欠席の為承認されず、準会員に留める。

4．準会員のプレゼンテーションと承認

①イギリス・AIDDC　②香港・IDA　③チェコ共和国・チェコデザインセンター　④日本・国際デザインセンター名古屋　⑤ギリス・IDDA　⑥スロバキア・スロバキアデザインセンター。

5．規約の小変更（字句の修正）承認

6．理事による提案及び報告

①IFIの使命に関するステートメント（理事長）

インテリアデザイナーの職能とデザイナー像の表現及び保護。

②環境保護に関する規約（理事長）

「グリーンデザインチェック」発行（日本語に訳して今後発行予定）

③Public Affairs Manual「公務マニュアル」制作（Schirn）

IFIの対外部交渉及びプロモートの為の手引書

④次年度会費設定基準の変更……承認（Handy）

1993（団体会員数×@3.55）＋基本料2,210ギルダー

1994～95（　〃　×@3.50）＋基本料2,020ギルダー

（以上は団体会員数が601～1000の場合の係数。団体会員数が次のランク1001～2000になると、@3.00基本料2,520となる）

⑤理事定数増加の提案（現６名を７名に）承認

会員国の増加と地域的広がりに対応（Berube）

⑥DESIGN FUTURES（Haudy）

若い建築家、デザイナーの組織化とサポート

⑦「デザイン学校の国際名簿」改訂版の作成配布

デザイン学部を持つ大学・専門学校（Anita）

⑧INTERNATIONAL HANDBOOK（Hiort）

制作準備中

⑨European Institute for Design and Disabilities がダブリン市に設立（'93～4）IFI, ICOGRADA, ICSID が全面支持と報告（Olle Avderson.SIR）

（高齢者と障害者のためのデザインを考える会）

以上の報告の終了と同時に、突然バグパイプが入場。緊張していた会場の空気が一気に和み、楽しい雰囲気につつまれて、しばし聞き入った。

演奏のあと、前事務局退任のセレモニーに移り、25年間事務局を支えてきた Hardenberg 女史に理事長が感謝を述べ記念品が手渡された。

7．1994～95年度予算の承認（Handy）

8．選挙結果による新理事発表（Linington）

①Marianne Frandsen（デンマーク）②Henri Claeys（フランス）③中川帛子（日本）④Janet Schirn（アメリカ）次点Young-Baek Min（韓国）と発表された。

ヨーロッパ、アメリカ以外の地域からの初めての理事誕生である。全理事から祝福されている中川さん。あちこちから Congratulation！おめでとう！の声が掛かってきた。

今日選ばれた４名の新理事に現理事長 Linington（イギリス）新理事長 Berube（カナダ）次期理事長として承認された Handy（アイルランド）の３名を加えて７名の新役員が誕生した。

これより、昼食のため２時まで休憩。

9．1997年 IFI 総会開催国の立候補プレゼンテーション

A．ソウル（韓国）

B．ダブリン（アイルランド）

紹介映画とスピーチによるプレゼンの後投票が行われ、ダブリンに決まる。

10．IFI'95 名古屋プレゼンテーション

①長岡理事長：今回の会議に来て、すでに２回英語でスピーチをやった。今回は少々疲れたので、日本語で行う。と言って、場内を笑わせ、スピーチに入る。

②加藤準備委員会事務局次長：英語による歓迎スピーチ

③今回制作したスライドを上映：次は NAGOYA で会いましょうの字幕を出してプレゼンを終了した。

11．1999年３団体合同会議開催国候補プレゼンテーション

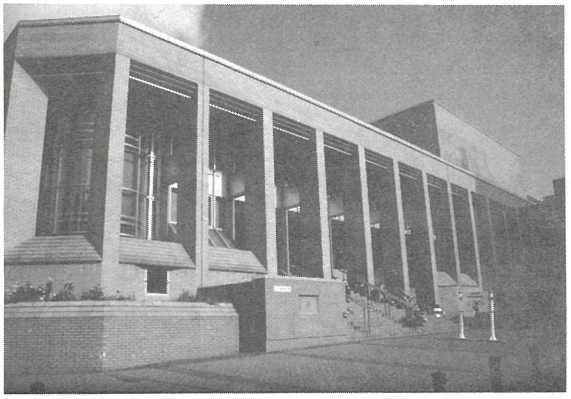
シドニー（オーストラリア）

シドニーのプレゼンを最後に、すべての議事を終了。

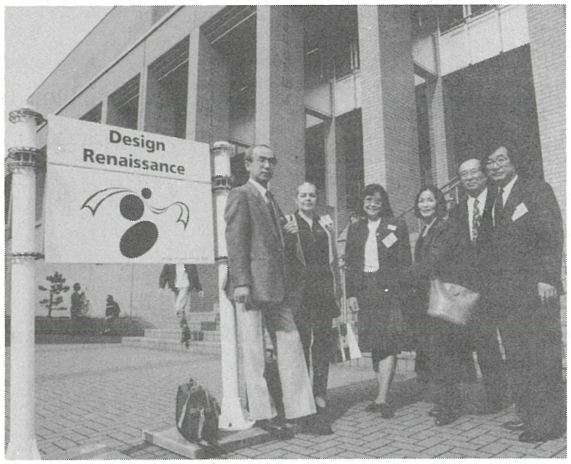
現理事長によるサヨナラの歌になった。Linington の見事なバリトンが会場いっぱいに広がる。ピアノ伴奏は新事務局長の Cynthia。絶妙のコンビに見えた。

最後に新理事長 Berube のあいさつで総ての行事が終了した。２日間お疲れさまでした。次は名古屋です。

〈文責　福田友美〉



IFI総会の行われたローヤルスコットランドホール



総会会場前で記念撮影

IFI の理事就任にあたって

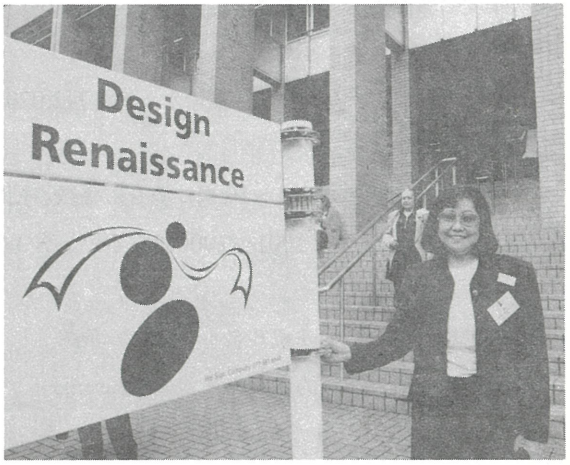
国際担当理事　中川　帛子

IFI が創立されて今年で30年、JID の IFI 加盟15年目の今年、アジアから初めての理事として16回IFI 総会の席で、理事に選出されました。私と IFI の関わりは JID が IFI 加盟に先立ち IFIからの情報通信を受ける窓口として1976年に通信会員に指名されたことに始まり、２年間関わりました。

今回の理事選への立候補は、1991年の IFI 総会における17回 IFI 総会の開催主催国に立候補した時からの一連のプログラブであり、今総会で私が述べた立候補声明でも IFI' 95NEGOYA の準備とその成功に向けて IFI 本部と緊密な連携の上働く旨を表明いたしました。理事としての任務は IFI' 95NAGOYA 関連の連絡と他の会議、フォーラムの調整連絡、及び、アジア地区における財務委員です。

現在、IFI が最も関心を持ち、活動の軸にしている事が三つあります。その第一はデザイン教育の国際基準の検討、第二は環境保護とエコロジー問題、そして障害者及び高齢者の為のデザインです。これらの問題に対し、JID そして日本の発言が求められることは必至です。とくに環境保護とエコロジーの問題は JID の問題としても早晩取組べき課題であろうと考えます。

この数年 IFI は社会、国際問題に積極的に関与し、活動の幅を広げています。激動する世界情勢の中で、欧米のデザイナー団体は自らの職能を守るため ECIA や Unified voice といった国の枠を越えた新しい枠組みを模索し始めており、IFI は当然ながらこれらの動きに全面的な支持を表明しています。IFI の中でもアジアの力は未だ未知数であり、アジア太平洋地区の会員数は日本を含め５ヶ国です。理事としての私の参加が、欧米中心の IFI にアジア的な思考や問題などをより現実の物として理解される助けになり、また、今後 JID の若い人達が仕事の場を、人の輪を世界に広げるために役立てば、これに勝る喜びはありません。



IFI理事に就任した中川帛子理事

「ジャパンナイト」について

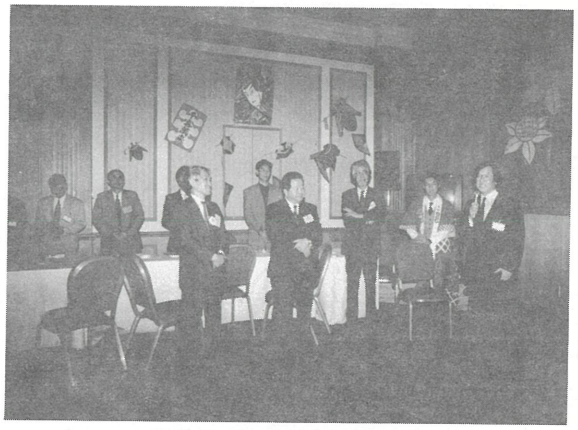
世界インテリアデザイン会議開催準備委員会事務局長
中部事業支部担当理事　宇賀　敏夫

今度の IFI'93GLASGOW 会議の中で、9月7日夜8時～11事迄開催のジャパンナイトぐらいいろいろ気を使ったことも、事が過ぎた現在振返ってみても、よくやったものだと満足感がよみ返ってくるようだ。我々 JID の関係委員のみならず、NCVB（名古屋コンベンションビューロー）の事務局側の加藤部長、鈴木課長の計画対応はまことに大変なものであった。兎に角名古屋から宴会場に使われる備品や天井高など問合せの打電をするも何の返答もなく、500分の1の会場平面図寸法を頼りにレイアウト図や飾り付けは、取付け可能なのかどうか全く不安な状況で現地に赴いた。従って自立式のパネル等を送り込み、会場壁面を使用せずとも装飾が可能な用意をして出かける。3日とジャパンナイト前日の6日、2回通訳を介しつつ延々7時間に亘って行ったヒルトン側の担当マネージャーと現場を見ながらの打ち合わせは、結果的には大成功であった。タペストリーは間仕切壁に釘止め、鯉のぼりや凧は、吊り糸を天井額縁部分に釘止め、タペストリーの折り縞は、現場でホテル側スタッフがアイロンをかけてすぐ飾り付けるような事まで行った。

日本的演出

有松絞タペストリー、鯉のぼりそして IFI'95マークのバナー、全ては IFI'95テーマ「NEXT WAVE」にマッチするよう仕込まれた日本的演出は会場に動きを与えた。そしてテーブルコーナーでは日本の伝統の文化、折紙、剣玉コーナーでの JID 会員のパフォーマンスは、会場に来た諸外国のデザイナー諸氏へのホスピタリティを大きく高めた。そして白布の上に積まれた真紅の盃は、参加者に鮮烈な印象を与え、持ち帰り用記念品として、予期せぬ絶大な効果を発揮した。日本側参加者140名、外国人250名、総勢約400名の人が会場を埋め、なごやかな雰囲気の中で行われたジャパンナイトは盛況そのものであった。法被を着せられたリニントン会長もグラスゴー市長も大喜び。8時過ぎにしか来れないはずの市長さんは「鏡割り」への参加を要請されて「そんな面白いことをやるなら」と開会予定の30分前に来てしまった。

スピーチは長岡委員長、神尾名古屋商工会議所副会頭、IFI 会長のリニントン氏は飛入りのスピーチ、鏡割りは上記の人の他に JAGDA の福田繁雄氏を混え国際デザインセンターの木村一男氏の音頭で蓋が割られ乾杯が行われた。“いけばな”をして頂いた相阿弥流家元小山太郎氏とエジンバラから Int' の支部長デボラ・ホソーン女史、有松絞タペストリーをデザインした杉田圭司氏、JID 池田氏の英語の司会、お開きの伏線と流した「蛍の光」も参加者の熱気に掻き消されて効果なし。結局事務局長の私の「Sanbonjime」がようやくお開きの合図になったようだ。にも拘らず、日本人の多くは帰りかけたが、外国客は名残り惜し気に帰路についた。2年後に開催されるIFI'95名古屋はこれ以上に成功するように JID とNCVB 共々綿密な計画対応を講じなければなるまい。



ジャパンナイト会場

会場で挨拶する神尾名古屋商工会議所副会頭

福田JAGD副会長、リニントンIFI会長、長岡理事長

教育会議リポート

副理事長　泉　　修二

近代を象徴するデザインがほぼ1世紀を経て、いま新たな段階にさしかかっている。次世代の基盤を構成するデザイン教育がどう変容してゆくのか、生産都市として１９世紀を先駆けたグラスゴーを舞台のシンポジュームにはテーマから類推できる期待があった。教育会議はいずれも前日までのローヤル・コンサートホールからローヤル・スコットランドホールのこじんまりした会場に移して行われた。実施された４会議を以下に示す。

・9月9日　デザイン・ルネッサンス

1) デザイン教育…国際的な展望

2) 技術…我々の未来

3) ビジネスとインダストリーに答えるデザイン教育

・9月10日　IFI

1) 教育円卓会議

デザイン・ルネッサンスの3セッションとIFIの会議とではその性格がやや異なっていたと言えよう。しかし、私が第一会議の要約と感想とを10日の会議で述べねばならないため、準備に第二の会議を聞きのがしたとはいえ、その他の会議は何れもデザインの変革期らしく現状の分析と将来への展望を含むものだった。

ここでは参加七カ国（英国２名を含む）のデザイン状況を反映した第一のセッションについて、概略を述べる。

導入（Tony Jones: Royal College of Art学長）はグラスゴーの歴史から、19世紀末の経済不況の中で、マッキントッシュの指向した、全体論的な方法が、如何にその後の工業やデザインに影響を与えたか‥に始まった。ここで使われた全体論という語は機能主義を越えた環境全体を総合的に捉えるという意味のようだった。

これに続く同じ英国（Graham Hills卿：Grasgow University前学長、BBC総裁など）の論旨は、「何でも屋」であるデザイナーの社会的地位の低さと、それを越えるためにはデザインに知的な核を与えることが必要だ‥ということが中心だった。「大学でデザインが教えられるのか」の疑問から始められた彼の論は知的教育概要としての情報系、工学系、人文科学系カリキュラムの提示と大学初年度からの実施の必要性をもって締めくくられた。

デザイン教育とテクノロジーに関して、西洋工業諸国とのデザイン事情の違いを述べたインド（Vikas Satwalekar教授：National Institute of Design）、デザインが学際的であるための言語学的思考やデザイナーの共通述語に言及した（チリJose Korn Bruzzoni: Pacific University）、欧米や日本の影響の中で、伝統の文化をどう創造するのかを語った香港（Hazel Clark博士：Swire School of Design,Hong Kong Polytechnic）など工業技術開発と国際化への動きを感じさせた。

デンマーク（Karen Blinco ビジャル・コミュニケーション主任：Copenhagen School of Graphic Design）の生涯教育と芸術の早期教育の中での効果としての何処の家庭も良くデザインされた家具とインテリアを持つが、すべてがデンマークでデザインされたものだとの言には強い自信が窺われた。しかし高度な全体論的アプローチと国際的な教育の体制への要望にも言及した。

ロシア（Ugene Assa モスクワ大学助教授：インテリアと展示デザイン）の混乱期と状況こそ違えアメリカ（Katharine MaCoy教授：クランブルック・アカデミー）の展望には2国とも一つの共通性があった。それは自己確立あるいは個人的な、創造的な自由の獲得についてである。特にアメリカは、バウハウスの影響を受けたデザイナーが、個人的反応を無視したり、地域的可能性や特異なデザイン言語を無視することにおいて売春婦のようだと言いきった。ロシアは教育課程を世界を歩き回り、成果を発表するワークによって、アメリカは学生が18才になりさえすれば既に持っている個々の価値を引き出すことによってデザイナーの持つ任務の文脈と主題を開発する能力を身につけさせねばならないと述べた。

状況は様々であっても全体を通してみるとき、各国共通に表現された傾向は学際的、自己確立、社会的責任であったように思う。これらの言葉は細分化されて周辺を見ることのできなくなった専門性一辺倒の立場から、環境総体への理解を持つ視点への変化ではなかろうか。また自己の確立をベースに社会的責任を持つデザインへの方向かと受け取ることが出来た。私が10日のラウンドテーブルで話したのもこれを膨らませておこなったものである。

最後に、講演の内容について聞き取り違いがあるかも知れないことをお詫びしておきたい。

以　上

“Design Renaissance” in Glasgow'93

＜国際デザイン会議のセッションに出席して＞

広報担当理事　わたなべ　ひろこ

9月6日の開会式基調講演を皮切りとして、9月8日までの3日間に亘るセッションは、ロイヤルコンサートホールとロイヤルアカデミー（音楽とドラマ）の2つの会場に分かれ、午前午後の1日3交代に組まれて開催された。

セッションの題名は、最終日のまとめ“未来への解決策”まで20項目のテーマによって提議された（後記題目参照）。今回は、3つのデザイン団体の合同会議であるから、それぞれのフィールドで活躍するスピーカー達の立場からこれらのテーマを論じ合ったわけだが、各々帰するところは20世紀という時代の反省と21世紀への思索を、自然と人間の摂理と文化との関わりをデザインという分母の上で語り合ったと思う。

限られた時間帯の中で全てのセッションに出席できるわけではないが、私は、下記の6つのセッションに出席した。

Session①　地域規模と世界規模でのジレンマ
（Local　and global dilemmas）

Session⑤　都市文化とデザイン ― 誰が負担するのか
（City culture and design–who pays？）

Session⑨　環境とデザイン（Environment and design）

Session⑪　未来へのヴィジョン（Visions of the future）

Session⑬　ファンタスティックグラフィックス
（Fantastic graphics）

Session⑱　ルネッサンスのデザイナー達パート2
（Renaissance designers part 2）

日本からのスピーカーとして、福田繁雄、福田敏男、木村博昭、村井敬、シー・チェン等が参加した。

私の出席したセッションの大略と特に心に残った事柄を下記にまとめる。

・セッション①　地域規模と世界規模でのジレンマ（葛藤）

ビジネスと産業と文化との関わりにおいてデザインがどんな役割を果たせるか。デザイナーと雇用者側が今直面しているジレンマとは何か。

自然とのバランス、民族間のバランス、国家的経済不均衡などの経済的バランスなどを考察しながら、人間の基本的な生存のために生きることの意味、どう生きるかを問い直し、人間らしく生きられる社会をつくるためのデザインとビジネスの関係、更に市民生活と行政、国家の役割まで広い範囲の討議が行われたが、特にデザイナーは文化の先達者としての自覚と責任をもつべきであり、責任をとる人達によって未来が造られるという発言、更に企業および国家レベルでのデザインコミュニティ・デザイン同盟の設立、共同責任として国境を越え、地球規模の連帯活動を持とうという提案が心に残った。

・セッション⑤　都市文化とデザイン ― 誰が負担するのか

デザイナーは都市文化にどんな役割をもつか。また、デザインは都市の経済と文化にどのような効力をもたらすか。

スコットランド出身のスピーカーのJanice Kirkpatrickは、グラスゴーのヴィクトリア時代の経済の発展と人々のエネルギーや、マッキントッシュなどのデザイナーの活躍が文化を支え、市を繁栄させた歴史的背景から'90年の Cultural Capital of Europe にグラスゴー市が選ばれた再生までの経緯を語りながら、デザインは文化をコントロールする価値を有するものであり、又、デザインは文化を構築する国際共通語ともいうことができる。人々は文化のために支払い、又その文化が人々に見返りをもたらすものであることを強調した。

木村氏は大阪の街をスライドを使って諸々の角度から紹介した。沢山の小さな店々が所狭しと立ち並ぶ商店街からネオンの夜景、若手デザイナーによる新しい建築・空間プラン、経済成長がもたらした巨大なビルディング群など、たくましい浪花の生活エネルギーを伝えながら、大阪の都市文化が国家によってサポートされたものではなく、人々のエネルギーと経済が文化を産み育てたことを提示し、氏の建築空間は自然とエコロジーの理念を通してプランしていることも披露した。

・セッション⑨　環境とデザイン

21世紀の環境にデザイナーは如何なる役割と責任を果たせるか。

健全な環境保全と管理にデザインプロセスがどう貢献できるか。

科学の発達と経済の繁栄がもたらす環境汚染とそれに対するデザイナーの責任と行動。より良き未来社会（パラダイム）を築くために、人間としての倫理が再考察さ

れた。

リサイクルの問題、廃棄物処理の問題もいつも語られるテーマであるが、更に人間が存在するミニマムな生活条件、非消費への引算の文化についての考察なども提示された。

特に私の興味をひいたのは、ドイツ鉄道のデザインセンターのマネージャーである Karl Dieter Bodack の新しい車輌インテリア計画の紹介であった。過日ドイツを旅してインターシティの新しい列車に出会い、従来の車輌デザインのあり方を超えたデザイン計画に大いに共鳴していたので、ここで彼に出会ったのは思いがけぬ収穫であった。一方では徹底したシステムと経営の合理化を計り、余計なコストを落しながら、他方でより高い質と心のサービスを提供するニューライフスタイルへの新しい社会的価値観を求めた交通機能の環境計画の披露は、汽車の中にいることを忘れさせてしまいそうなキャフェの印象を思い出しながら楽しんだ。

・セッション⑪　未来へのヴィジョン

予見できる未来においてデザインとその内容がどのように変わるであろうか。デザインとデザイナーが未来の工業的、文化的組織に何を提供することができるか。

将来人々の生活は、益々産業とビジネスを必要とするであろう。デザイナーは、消費者のニーズをよく理解するとともに、救済者として産業ビジネスのもつ非人間的な部分をコントロールしながら、国家や企業が人々のより良い未来生活を整えるために生活改革者としての責任を果たすよう計らねばならない。特に国家が次の時代を背負う子供に対する政策をもっと積極的に取り上げるべきであることが指摘された。尚、今後のデザイン教育のあり方についても提案がなされた。

・セッション⑬　ファンタスティックグラフィックス

21世紀にグラフィックデザインがどのような方向をもたらすか。

４人のグラフィックデザイナーによるそれぞれの作品の紹介がスライドを使ってヴィジュアルに行われるとともに、各自のものづくりのコンセプトが述べられた。それぞれに特徴があり、特にフランスのデザイナーPierre Barnard のイラストは楽しかったが、何と言ってもその卓越した自由な発想と幅広い表現力を見せてくれた福田繁雄の発表は、そのユニークな展開の面白さについ引き込まれ、会場全体が酔わされた感があった。氏のスライドが終わったとき、割れんばかりの拍手がしばし鳴り止まず、国境を越えた興奮と感嘆と讃美が会場に渦巻いていたと言っても過言ではないと思う。

・セッション⑱　ルネッサンスのデザイナー達　パート２

ルネッサンスデザイナーとは何か

そのデザイナーの仕事の提示と役割分担

“ルネッサンスデザイン”は、この会議の総合テーマでもあるが、激動の20世紀末に掲げたタイトルをして的を射たものであったと思う。ルネッサンスのあのエネルギーに溢れた先人の仕事と今日をオーバーラップさせながら新しい世紀を迎えるための熱い夢を、ID、グラフィック、建築と各分野のスピーカー達が各自の仕事を通して表示してくれたが、特にクランブルクアカデミーオブアートを1988年に卒業し、一時ミラノのマリオ・ベリーニィのところで働いたこともあるというアメリカの若い女性デザイナーの Lisa Krohn のスライド発表によるユニークな発想の生活用具の開発は、ひとしきりニューライフスタイルと新しい時代の到来を予見させてくれた思いであった。

私の限られた時間と、しかも不得意な言葉の障害の中で得たものは不完全であると思うが、それぞれのセッションのテーマは異なっても全体の流れを私なりに通してみれば、失いかけた自然とのバランスを取り戻し、人間らしく生きるための本質を問い直し、今後更にユニバーサルなレベルで考えて行かねばならぬデザイナーの自覚と責任を喚起させるものであったと思う。

（セッション題目については、次頁参照）

頒布会のお知らせ

IFIより大学名簿「IFI International Directory of Schools」の1993年改訂版が刊行されました。

IFIの教育委員会が編集したもので加盟国、プラス３か国のデザイン関連大学２７３校を紹介したものです。

ご希望の方はコピー代、送料共で¥1,000にて頒布いたします。現金書留にて事務局にへお申し込み下さい。

（田口）

月日	No	国際デザイン会議セッション題目	
9.6	1	Local and global dilemmas	地域規模と世界規模でのジレンマ
	2	Photography & morality	写真と倫理
	3	The role of transport in the city	都市交通の役割
	4	Design for advertising and business Communication	広告、通信におけるデザイン
	5	City culuture and design – who pays?	都市文化とデザイン－誰が負担するのか？
	6	Design and the media:manipulator or manipulated?	デザインとメディア：操作するのか、されるのか？
	7	Public spaces and places	公共空間
	8	Age – the challenge for design	高齢化：デザインの挑戦
	9	Environment and design	環境とデザイン
9.7	10	Visions of the Future	未来へのヴィジョン
	11	Visions of the Future	未来へのヴィジョン
	12	Interactivity – the fourth dimension	相互作用－四次元の世界
	13	Fantastic graphics	ファンタスティックグラフィックス
	14	Renaissance designers	ルネッサンスのデザイナーたち
	15	The global workplace	グローバルな仕事の場
	15A	Design management – myth or reality	デザインマネジメント　神話か現実か
	16	Robotics	ロボティックス
	17	The malling of the world–leisure and retail	世界のショッピングセンター：レジャーと販売
	18	Renaissance designers Part 2	ルネッサンスのデザイナーたち　パート2
	19	Products and lifestyles of the future	未来の製品とライフスタイル
9.8	20	Creating solutions for the future	未来への新たな解決策
	20	Creating solutions for the future Part 2	未来への新たな解決策　パート2
		Final session and summing up	最終セッション及び要約

グラスゴー "Design Renaissance" 参加ツアー報告

本部国際委員　山田　隆二

今回のグラスゴーツアーは昨年来の関西支部による企画を中心に、その他の支部グループ・個人参加者・IFI'95にご協力下さる組織・団体・個人の方々など、過去に例を見ない参加者総数となりました。(財)名古屋観光コンベンションビューローのご尽力により集計した日本人参加者延数は140名弱と言う多さでしたが、JID会員は半数近い70名程となり、またセッション講演者の福田繁雄氏はじめ殆どの日本人がIFI'95誘引の為、ジャパンナイトに参加して下さいました。

今回私は、関東を中心にしたグループ、他のグループの一部、および個人参加の方々の幹事役をさせて頂き、各々の参加登録の取りまとめ・連絡調整役、ジャパンナイトのレセプション等を担当致しました。

「関東ツアー」は6月初旬になって、他の全てのツアーがジャパンナイトの後、現地を離れてしまうと言う事情から、9月10日・11日のIFI総会時に現地に滞在し、会議出席が可能となるよう企画したものです。その為、グラスゴー滞在が7泊8日にもなり、結果として主催者提供イベントやツアーなどを最大限活用する事を考えました。

9月3日(金)夕刻、ロンドン着となり、まる1日の自由行動日の後、5日にドックランズ・デザインミュージアム・市内バス見学後、夕刻グラスゴー入り。チェックインもそこそこに、ロイアル・スコティッシュ・コンサートホールでの登録を済ませ、7:30からはウエルカムコンサート鑑賞。キルトを着たグラスゴー市のロード・メーヤーや商工会議所会頭、主催者側（王立デザイナー協会）の歓迎挨拶に続いてスコットランド色の強く出た美しくて楽しい第1部の始まりです。可愛らしい二人の少女によるケルトの伝統楽器でもあるアイリッシュハープの演奏、10～25歳の百人もの若者によるバイオリン中心のエールシャー・フィドル・オーケストラにはほぼ満席の場内も手拍子を合わせ、アメリカに渡った移民達のフォークダンスやブルーグラス・ミュージックのルーツに思いを馳せました。

2日目以降9日の教育セミナーまで、各々セッションや主催者企画の近隣都市およびナショナルトラストにより保存運営されている歴史的集落・建造物の見学などに日

中を過ごした後、前記コンサートを含め、8日迄毎夜、パーティーに出席。7日のジャパンナイトについては他の方が報告されますので私は6日のバレルコレクション、8日のケルビングローブの事に少し触れておきましょう。双方とも広大な公園内にある国立の美術ギャラリー・博物館を会場にしたいかにも英国流のフランクな催しでした。前者は83年に開館したモダンな美術館中庭に設営された大エアーテントでのビュッフェスタイル、後者はフェアウエルに相応しくちょっと気取って10人掛の丸テーブル約50卓をビクトリア建築のメインギャラリーホールに配置するというなかなか迫力あるものでした。各々展示物を鑑賞しながら本会を持つという企画で、ハープのちょっとした演奏がさりげなく配されていたり、あのバグパイプによる歓迎など心憎い演出もあり、なかなか楽しく過ごせたと思います。

その他、前述のエクスカージョン等に含めて、エジンバラを初めパース、ゴルフで有名なセント・アンドリュース他を訪れ盛沢山の旅行でありました。

最後になってしまいましたが、「デザイナーである会員が多数行った割には各セッションへの出席者が少ないのでは」とのご意見を頂きました事も合わせてご報告いたします。今回の特殊な事情を考慮しても、やはり一考する必要を感じます。次回、4年後のアイルランドへの課題となれば幸いです。

グラスゴー会議に参加して

関西事業支部長　浅田　弘之

9月7日、グラスゴーで開催した JAPAN NIGHT は、グラスゴーヒルトンホテルのボールルームを超満員にする参加者を得て、成功裡に幕を閉じることが出来た。

これまで、このレセプション開催に向けてあらゆる努力を傾けていただいた関係者に改めてお礼を申し上げます。

いよいよこれから95年の名古屋会議に向けての本格的な準備が始まるわけであるが、今回の会議を通じて、特にレセプションに関して感じた事を、気のつくままに多少述べてみたい。

9月5日のロイヤルコンサートホールでのオープニングコンサートに始まり、バレルコレクションでのレセプション、ケルビングローブ美術館でのガライヴニングなどに参加したが、先ず形式ばったプログラム運営を極力排し、社交の場としての運営配慮が巧くなされていた。場所の選定も、開催日程、趣旨等に添って選定されたであろうと推定されるが日本ではパーティーなどでの利用は先ず不可能な美術館の使用（外国ではよくあるが）など、会場それ自体が雰囲気づくりに大きな役割を果たしていた。主催側も目立たず、巧みに進行していく技法はなかなかのものである。

名古屋では、これらの点について＜内容とそれにふさわしい場＞という点から可能な限り考えていきたいものである。

以上

「九州発台風に追われてのIFIグラスゴー」

九州事業支部長　鐘ヶ江　茂則

3日の早朝九州を出て一日前出発地名古屋に着く。最強の台風といわれた13号にあおられての出発であった。九州支部から坂下、飯田会員と私の3名である。ツアーはそれぞれ違っていたが日本からの参加総数は調べたところ132人といままでにない参加数ではないだろうか、残念ながら私は言葉が解らない会議への参加も無理な事にて私なりのIFIとグラスゴーとなった。まず4インチが1マイルという市街地図を買いこみ見学したい所と内容を検討してみた。私はまず始めての街にきたら歩くことにしている。街のたたずまい、住んでる人々、繁華街ショールームと見学した上で目的としていたミュジアムやハウス又は学校等を見て回ることにした。歴史を感じさせる落着いた美しい街であった。人口が約70万人、昔はタバコの集散地で栄え、その後は造船業で大きくなった街であるらしい。

最近では日本の大学の先生たちが研修によくみえるそうでもある。私の知人で福岡大学の教授も2週間前に家族で一年間の研修に来られていて、まずジァパンナイトへの招待状を持って訪問しました。素晴しい住宅環境区であった。あれは一年では無理だなきっと2年ぐらいはいたいときっとそうなるだろう。・・・

7日のジァパンナイトは素晴しかった。場所の選定、会場のデスプレーを始め日本、名古屋会議へのアピール等を含め事務局を始め中部支部会員全員の準備と役割が大変であったろうと思う。まず中部の方々に感謝いたします。

私の場合がケン玉と折紙の担当でそれは大変な盛況で

コーナは人でゴッタ返していました。特にケン玉の要望が多く最後には取り合いとなり私も私物を持っていったのですがそれも手離すこととなり、でも大変楽しく喜ばしいことでありました。そして又翌日より市街廻りと実に充実した日々を過すことができたことを、グラスゴーと中部会員事務局の方々にお礼を申し上げます。

平成5年度・デザイン功労者 佐々木　達三・渡辺　力名誉会員 ほか 2氏に

「デザインの日」の去る10月1日、東京・霞ヶ関のイイノホールにおいて、平成5年度のデザイン功労者表彰式及びグッドデザイン商品選定証・大賞等授与式が行われ、デザイン功労者には會田　雄亮、秋岡　芳夫、佐々木　達三、渡辺　力の4氏が表彰をうけました。なかでも、佐々木　達三、渡辺　力の両氏はJID名誉会員であり、JIDとしても大変誇り高いことで、会員の皆様と共に心からお喜び申し上げましょう。

このデザイン功労者表彰の意図するところは、デザインの普及、デザインの向上またはデザインに関する国際交流の推進に顕著な功績のあった個人を対象として、通商産業大臣が表彰することにより、デザインの振興及びデザインの重要性の社会への一層の浸透を図ろうとするところにあります。

また、この表彰制度は平成2年度に創設されたもので、JID関係の表彰は、故・豊口克平名誉理事（平成2年度）以来、3年振りのものです。つぎに両会員の表彰の対象を記しておきます。

佐々木　達三さんは「日本インダストリアルデザイナー協会初代理事長及び理事として、長年にわたり産業デザインの普及・啓蒙に努められるとともに、日本の優れたデザインを海外に紹介するなど、インダストリアルデザインを通じた国際交流を推進された他、意匠奨励審議会（現輸出検査及びデザイン奨励審議会）委員として、我が国のデザイン振興に貢献された功績に対して」

渡辺　力さんは「(財)クラフトセンタージャパン、日本インテリアデザイナー協会等の理事として、デザイナー団体の組織化とその育成に寄与された他、意匠奨励審議会（現輸出検査及びデザイン奨励審議会）委員及び通商産業省選定グッドデザイン商品選定審査委員として我が国のデザイン振興に貢献された功績に対して」

当日の挨拶の中で佐々木　達三さんはつぎのように語られました。

「昭和2年に学校を卒業、その4月に学校の教授が亡くなり、五里霧中の中で、造船所に勤務し、手さぐりで仕事をしてきました。

終戦後は、フリーランスデザイナーとして、芋を食べながら、ID、インテリア、クラフトデザインの仕事を、前へ前へと自分の道として歩みました。

いま思い返すと、自分が通ってきた道は、まちがっていなかったと喜んでいます。」

一方、渡辺　力さんはつぎのように語られました。

「学校を卒業してまもなく60年になりますが、佐々木さんは先輩、秋岡さんは後輩です。

最も感銘深いのは、1956年、今から37年前に、日本生産性本部の推薦で、8週間にわたり、米国各地を視察させていただいたことです。GMやIBM を視察、また2～3 年後に飛ぶ予定のボーイング747のモックアップには強い感銘を受けました。

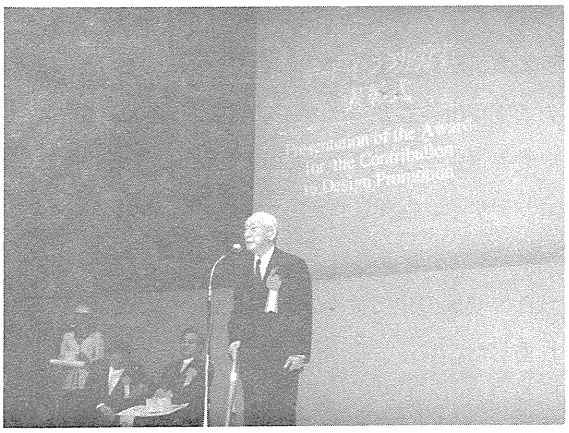
通商産業省が、デザインに関して、バックアップされていることに感謝しております。」

表彰式及び記念懇親会には、JIDから長岡理事長、泉副理事長、森谷理事が出席、また、広報委の後藤宣夫会員が記録撮影を兼ねて出席されました。

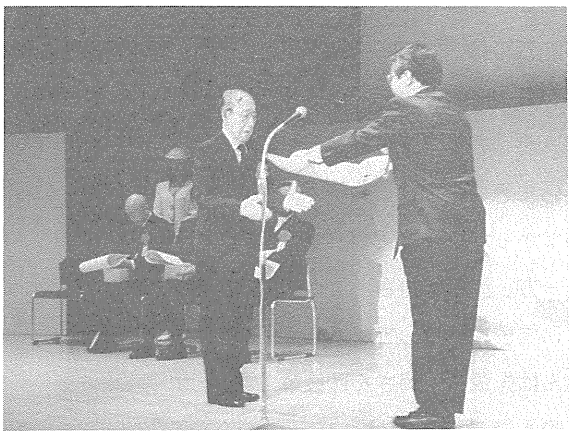
両名誉会員は、大変お元気で、多くの方々と歓談されていましたが、佐々木さんは血色もよく益々ご活躍中です。一方、渡辺さんは一時体調を崩されましたが、十分に回復されお仕事を続けられています。

お2人とも、今では少なくなったJID設立発起人として、大変貴重な存在でもあり、これからも健康でおられるようにと思っております。

（総務担当理事・森谷　延周）



受賞の喜びを述べる佐々木名誉理事



表彰状を受ける渡辺名誉理事

表彰された渡辺・佐々木両名誉理事を囲んで
（豊口JID理事、泉副理事長、長岡理事長、森谷理事）

JID 35

創立35年を顧みて

名誉会員　佐々木　達三

今から44年前の昭和24年、戦後間もない時、Leconte du Lisle （日本名帝立丸）という仏蘭西の客船を海中から引上げ、元海軍工廠の舞鶴造船所で元通りに修理して仏蘭西に返還することになった。元通りといっても船内だけは日本のデザインで艤装しようということで三菱重工業の元の上司から設計を依頼された。終戦によって三菱重工業は解体され私も同時にフリーランサーになった訳である。条件として船内艤装の設計を任せるが金銭に関しては一切口を出すなということであった。

設計とそれに関しての材質、工法等につき詳細な工事仕様書を以って工事の外註見積依頼を業界に出し、やがて見積が集った。ところが購買関係のこれも三菱重工業に居った係の者から、従来の經験から見て、これらの見積は普通でないから検討してくれと言はれ調べてみて頭底船舶艤装に耐えられぬ工事しかできぬような安値ばかりであった。上司から金銭に口を出すなと言はれていたが、このままだまっては居れぬので、敢えてこの旨を報告し、許しを得て業者を京都の宿屋に集め我々も舞鶴から出てきて、工事が仕様書通りにできるのか如何と尋ねた。業者は名の通った会社ばかりで、当時の戦後の復活していない国内情勢の中での工事なので是非にも受註したいと安値を提出したという。然し仕様書通りの施工はとてもできない上に赤字も覚悟だったという。安価は結構だが、材質を落とし、工事の手抜きなどでは仏蘭西までの回航にも耐えぬ事になりかねないので、造船所内の協議の結果、再見積を提出させることになり、同時に我々設計側での独自の見積を参考に出すことにした。結果として値上見積ということで決定、発註された。そして私は上司との約束に従い、金銭問題に口を出したことを理由にこれを機会に舞鶴造船所を退任した。戦後復興いまだしの時に誠につらいことではあったが。

受註会社の一つの大阪高島屋の当時の装飾部長であった樋口治氏とこのことについて話し合ったことがあった。

営業の努力、競争の中の苦闘は分るが、設計の尊厳、質の維持、その向上、デザイナーの地位の確立を計らねば、戦後の発展は望めぬと。

これがJIDの発足の契機にもなったと思っています。

” 35年前を顧みて！”

名誉理事　樋口　治

『東京で、いよいよインテリアデザイナーの協会が発足しようとしている。関西も是非これに協力するように、あなたが纏めて欲しい。』。剣持勇氏がわざわざ西下して、私の所へ来て、熱っぽく話し出したのは、35年前の

1958年（昭和33年）の7月頃であったと記憶している。1951年（昭和26年）には『日宣美』が発足し、翌52年には『JIDA』が成立する等、敗戦後の窮乏時代を経て、漸く再建時代にさしかかった当時の日本には、同時に激しいデザイン・ブームが起こっており、インテリアデザイナーの間にも、『我々にも協会を！』という熱意が起こったのも当然である。

大阪では，家具工場の経営者達が先ず立上っていた。西野田工業高校（現） 卒業の、大和工業の寺井勇氏や大阪木材工芸の浦西正太郎氏等は『日本室内装備設計士協会』を設立するために、当時熱心に努力していた。彼等は再々私のもとを訪れては、種々の相談をかけてきたし、私もまた熱心にその相談に乗っていた。『SSS』という現在でも使はれている同協会の略稱は、当時の私の発想で名付けたものである。

しかし、剣持氏が私に言った『この協会は、デザイナーの発意と希望で創設され、その運営もまた、デザイナー自身によって行はれる！』この一言は、私を大きく動かした。

寺井氏や浦西氏の熱意もよくわかるが、戰前・戰中の産業界におけるデザイナーの地位の低さを痛感していた私には、この一言は何ものにも替え難い魅力であった。『よし、我々もデザイナー自体の会の発足に協力しよう！』。

私は直に当時の在阪インテリアデザイナーの実力者であった岡村実（日建設計）・村尾榮（竹中）・竹中長（大丸）の三氏に集まって慾しいと呼びかけた。

忘れもしない昭和33年8月24日、私は島之内のお座敷てんぷらの『いとう』に3氏を招待した。剣持勇氏も再び来阪してこの会合に出席してくれた。思えば彼もまた、この協会の設立には熱心に努力したものである。

竹中長氏がこの席に、『記録その他、この会に役に立つでしょう』といって一人の部下を連れてきた。これが川崎浩君である。

勿論、出席した者は全員、この協会の設立に賛成した。それも心からの賛意を表したのは、前述の〝デザイナー達の協会〟ということが、皆の心を動かしたからである。

その後いろいろの經緯もあって、一足先に東京で協会を発足させ、その会員が何名かの関西の会員を入会させ、その輪を拡げて関西支部を結成することになり、私とたしか岡村君だと思うが、二人が先ず東京へ出かけることになった。その時の印象もまた、私にとって忘れられないものであった。

芝に在った当時の川島織物の二階であったと思うが、我々が狭い木の階段をみしみしと昇ってゆくと、階段のすぐ傍に東京の連中が並んでいた。大泉博一郎氏も、豊口克平氏も、剣持勇氏もいる。野口寿郎・中西三郎・岩瀬要三・狩野雄一氏等々がずらりと坐っていた。と言っても、当時の私には、その中の二三氏を除いては、誰が誰だかわからなかったのであるが。

大阪支部の創立總会は、翌年（昭和34年） の5月17日に、梅田新道のエーワンベーカリーの3階で行はれた。現在の大阪駅前の超高層ビルの三号棟か四号棟の辺りである。当日の出席者31名、委任状11名の約50名で発足した。東京からは大泉理事長等四氏が出席してくれた。記録によると、当日の入会金一千円、会費三百円と、今昔の感に耐えないが、変ったのは、今日の会員の増加と会勢の盛大さである。加えて、今日のこの協会を背負っているのが、失礼乍ら、私から見れば若い方である。その若い方に私は絶大な期待と信頼を寄せている。大いに頑張って、この協会をますます強大なものにして慾しい。

5.9.18

次期役員選挙のお知らせ

選挙管理委員会委員長　香川　顕郎

本年は、2年任期の役員選挙が行われます。次期（平成6年4月1日～平成8年3月31日任期） の役員を、「役員選挙規定」にのっとり、下記スケジュールにより実施いたします。正会員各位の大切な権利行使ですから、積極的にご協力下さるようお願いいたします。

役員選挙実施スケジュール

項　　目	月日(予定)	内　　容
①選挙管理委員長委嘱	93.9.27(月)	正会員以外より委嘱 (香川顕郎)
②選挙管理委員会発足	9.30(木)	委員５名委嘱
③選挙PR(第１回)及び推薦候補者依頼	10. 5(木)	案内及び回送ハガキ
④選挙公報作成	28(木)	推薦候補者名簿作成
⑤投票用紙配布	11.11(木)	被選挙人名簿添付
⑥選挙PR(第2回)	25(木)	ＤＭなど
⑦投票締切	12. 9(木)	通信投票締め切り
⑧投票数確認	16(木)	正会員１／２以上
⑨開票	94.1.17(月)	選挙管理委員会（於本部）
⑩報告	2月中旬	ＤＭなど

※ 選挙の概要については、「役員選挙規定」（10月初旬送付済）をご参照下さい。

お問い合わせは本部事務局（☎ 03-5704-3421）へ。

以　上

本部委員会の動き

●組織委員会

本部・支部組織委員会から２つのお願い

「JID35 会員アンケート」&「新入会員勧誘を」

①「JID会員アンケート」10月30日（土）までに。

1958年の創立から本年は35周年の記念すべき年に当っております。JIDは会員数の上でも、組織としてわが国有数のデザイナー団体になりました。そこで、組織委員会では35周年記念事業として＝いまJIDを考えてみよう＝と計画いたしました。去る9月下旬、アンケート用紙をすでにお手元にお届けしてあります。どうぞご確認下さい。アンケートという限られた形式ですが、会員の皆様のご協力をお願いいたします。バブル経済の崩壊があり、インテリア業界をとりまく環境も一段と厳しいものありますが、こういう時期にこそ皆様から率直なご発言をいただくことが肝要かと思います。回送期限は10月30日（土）となっております。ぜひとも積極的な御回答をよろしくお願い申し上げます。

②「新入会員勧誘を」　日本全国にJID会員を。

いま世界インテリアデザイン会議「IFI '95 NAGOYA」の成功を目指している機会に、JIDを名実ともに全国規模の組織とさせるためにも、各地域でご活躍の方々はもちろん、企業内デザイナーなど、一人でも多くの新しい仲間を増やしたいと考えております。

また、委員会では先に県別会員状況を調査いたしましたが、「岩手、宮城、和歌山、鳥取、愛知、高知」など、6つの県には未だ会員が在籍しておりません。こうした会員無し県を早期に解消したいものです。皆様の重点的PRとご推薦とをよろしくお願い致します。PRや入会勧誘の際の関係書類等は本部・事務局にご請求下さい。また、推薦者や入会条件についてのご質問等、各委員も積極的にご協力いたします。どうぞ遠慮なくお問合わせ下さい。

本部・支部組織委員会

山本其観代（委員長）	関西冬樹（中部）
水野　信策（副委員長・関東）	野原建広（関西）
中村　　昇（関東）	江島太士（九州）
矢作　彩子（〃）	山品　元（担当理事）

●交流委員会

通産省検査デザイン行政室との懇談会を開く。

日　時：8月16日　12時より2時間

出席者：通産省	検査デザイン行政室長	玉木　昭久
	デザイン奨励班長	本田　誠一
	振興係長	竹村　成彦
	JID 本部交流委員会理事	浅野　盛治
	委員長	藤村　盛造
	副委員長	大溝　　浩
	委　員	秋野　　稔
ゲスト	JID 理事長	長岡　貞夫
	事務局長	野村礼七郎

本部交流委員会はかねてよりJIDと行政側とのパイプを太くするため、繋がりの深い関係部署と懇談会を持ちたいと計画していた。特にJIDの監督官庁である検査デザイン室とは交流を深めIFIに向けて情報交換の活性化に努めたいと希望していた。

検査デザイン室長は今年になって玉木室長が就任され、奨励班長も新たに本田誠一氏が特許庁から派遣された。野村事務局長と振興係長の竹村氏の計らいで、丁度一般ではお盆休みのときにJIDの人数もそろい、先方との都合も合うということで8月16 日に通産省から近い場所で昼食を共にしながら懇談することができた。

懇談会は非公式で雑談形式であったが、JIDがIFIに向けて今後2年間取り組んでゆくにあたり、本部、支部で会員と諸団体との交流を目的とした企画やイベントに対して行政室からの協力をお願いした。玉木室長は、関西でも九州でもJID主催のイベント、その他のことで検査デザイン行政室長が役に立つ事であれば遠慮なく連絡してほしいとの積極的な返事を頂いている。また浅野担当理事からはJID会員の多くの分野に渡る人材、拡大するインテリアデザイナーの活動範囲などIFI名古屋成功を目指して、行政室側からのJIDへの積極的な活用もお願いした。

今回ゲストとして参加していただいた長岡理事長と検査デザイン行政室長とのコミュニケーションも深まり、JIDと行政側との関わりをより一層高めて、会員が広く質の高い活動が出来るように今後も本部交流委員会はこの様な機会を行政側や諸団体、並びに賛助会員の方々とも積み重ねて行きたいと考えている。

（本部交流委員長　藤村　盛治）

●教育・研究委員会

本部教育研究委員会では、会員からの熱心なご要望に基づき、JID会員による自主研究活動の登録制度を実現すべく検討してきたが、9月25日に開かれた理事会で、その提案が承認されたので、下記にご案内のように、制度の運用を開始する。現在進行中の研究をお持ちの方、今後の研究を予定されておられる方を問わず、積極的にご登録いただきたい。なお、登録研究がある程度まとまれば、研究発表会の開催も企画したいと考えている。

（教育・研究委員会委員長　清水　忠雄）

JID会員による自主研究活動登録のおすすめ

本部教育研究委員会

本部教育研究委員会では、会員からの熱心なご要望に基づき、JID会員による自主研究活動の登録制度を実現すべく検討してまいりましたが、9月25日に開かれた理事会で、その提案が承認されましたので、いよいよ制度の運用を開始いたします。下記の主旨と登録要領をお読みの上、登録を希望される方やグループは、こぞって手続き下さいますようご案内申しあげます。なお、登録研究がある程度まとまった段階での研究発表会の開催を予定しております。

1. 主旨

会員による自主的な研究活動を奨励するため、下記のような要領で「JID登録研究」制度を発足させます。これは、会員の自主的な研究を奨励するにとどまらず、会員相互の情報交換や研究成果の発表等を通して、会員のレベル向上や活動の活性化に貢献し、ひいては、外部に対するJIDのアピールにもつながるものと期待されます。

2. 「JID登録研究」の登録要領

1) 正会員個人またはグループが、インテリアデザインに関する研究を行おうとする際、JIDへの登録を希望する場合には、所定の様式により研究計画書を作成し、本部教育研究委員会に提出する。

2) 本部教育研究委員会は、その研究計画書を提出した正会員個人またはグループに対して、その研究が登録されたことを文書によって通知するとともに、その研究計画の概要を「JID NEWS」等に公表する。

3) 登録された研究の担当者は、研究調査の過程および発表において必要であれば、当該研究が「JID登録研究」であると表明してよい。ただし、当該研究の成果を「JID登録研究」としてJID外で発表する場合には、その概要を本部教育研究委員会に報告する。

4) 当該研究の担当者は、ほかのJID会員等がその資料の入手を希望する場合や、JIDが研究発表会を主催する場合には、資料提供等の協力を行う。

5) 当該研究の成果に関わる諸権利と責任は、その担当者に帰属する。

3. 登録のための申請書式

「JID奨励研究」を申請しようとする正会員は、A4の用紙に以下の事項を記入して、本部教育研究委員会に提出（JID事務局経由）してください。（必要により2枚以上にわたっても可）

1) 申請年月日

2) 申請者：代表者名／会員番号／代表者連絡先住所・電話およびFAX番号
共同研究者名／会員番号（申請時におけるグループメンバー全員）

3) 研究題目：

4) 研究の目的と手法：（200字程度にまとめる）

5) 研究期間：

6) 正会員から共同研究者をさらに募る予定の有無：（条件があれば併記）

7) 研究発表についての予定または希望：

●展覧会委員会

・委員会活動報告

IFI名古屋に向けて、展覧会委員会で企画中の「日本の木の椅子展」について、報告させていただきます。

「日本の木の椅子」を、明治以降125年の歴史の中で整理し、研究しています。

明治以降125年の中から、代表となる100脚の選択、収集、復刻をする作業に11月より入る予定です。

IFI'95名古屋の１年前、94年9月7日～11日に、プレ・イベントとしての「日本の木の椅子展」を、飛騨高山木工連の協力を得ることの了解もできました。

「日本の木の椅子展」を開催する上での調査・復刻は、日本一の椅子産地である飛騨高山の家具メーカーの協力なくしては出来ないテーマだけに、高山木工連理事会において、「JID・日本の木の椅子展」への全面的な協力を得たことで、大きなステップを踏んだことになります。

「日本の木の椅子展」の展覧会と同時にJIDメンバーによる「日本の木の椅子のシンポジウム」なども企画しています。日本の家具の源流をさかのぼり研究ディスカッションする中から、IFI名古屋へ向けての展覧会テーマ、研究対象が、より具体的に見えてくることと思います。

これから、JIDメンバーの皆様に、日本の木の椅子の歴史、明治以降125年の資料、情報提供を呼びかけていきたい、と考えております。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

展覧会委員会　委 員 長　岩倉　栄利
副委員長　鈴木　憲三

事業支部の動き

●関東事業支部

・初の次期代議員選挙投票12月に実施

既報の通り、関東事業支部では、次期代議員（平成6年4月～平成7年3月）の選挙を、本部役員選挙に引き続き12月に通信投票を実施することになりました。

関東事業支部代議員選挙の選挙管理委員長には、中村圭介名誉理事にお願いいたしました。近々に代議員選挙実施スケジュールと一緒に、代議員推薦候補者の依頼を関東事業支部正会員各位にお送りいたしますのでご協力をお願いいたします。

なお、先行して本部役員選挙が実施されますのでくれぐれもお間違いなさらないようお願いいたします。

・関東事業支部国際委員会報告

IFI'93グラスゴーで放映する'95名古屋誘引用のプレゼンテーションづくりは、'95名古屋の世界インテリアデザイン会議開催準備委員会よりの受託事業の一環として行われた。本部国際委員李氏を中心に、スライド作成に当たるインフォネットと共にスタッフ11名、３ヶ月間の作業である。

IFI'91シカゴでの誘致に成功した際のプレゼンテーションは、日本の伝統と近代そして名古屋の紹介等日本の魅力を十二分にアピールしたが、今回の主旨は2年後多くの来訪者をいかに迎えることができるのかの6分間のドラマづくりである。

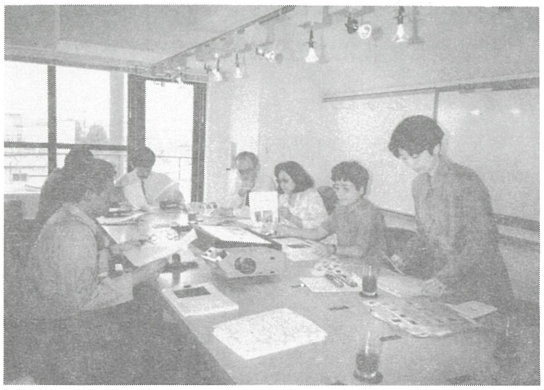
日本の伝統はむろんのこと、それ以上に近代日本への興味を持つ世界の同志達に向け、名古屋の利点を生かした周辺の産業文化を一本の軸にし、更に同伴者（妻）達に飽くことのない体験コースを不断に見せることで、「日本に行ってみたい！」と感じ入ってもらえたらまずは目的が達成されたという訳だが、果してどうであったか。

現地では、ランチタイムと総会で放映されたが、果して観客がその思いにかられたかどうか？当日直後湧いた拍手に期待をかけたいところである。

内容は、①交流、②体験　③インテリア・建築　④名古屋の紹介を柱に人間との交流場面で構成されている。しかも大半の場面が欧米人参加のスライドでまとめたことを特色としている。ここでスライド提供等でご協力頂いた各企業及び各氏にこの場を借りお礼申し上げます。

これを期に今後2年間、あらゆる誘引プレゼを続け、意識を高め、デザイン交流を通して世界の交流につなげなくてはならない。そして'95には内外の同志を名古屋に集結しなければならない。これは私達のテーマであり、世界のテーマでもある。私達デザイナーが社会の一端を担い、次なる「新しい創造」を見い出すためにも。

（関東事業支部国際委員会委員長　下島資子）



グラスゴー プレゼンテーションスライド 編集作業

・その他の活動報告と予定

3つのセミナー共催

①'93.9.11(土)　自由学園

「国際的文化遺産としての建築物保存を考える」

建築史家　山口　廣

主催　明日館を保存したい者の集い

合わせてF.Lライト設計のホールを見学した。

②'93.9.20(月)　六本木ザ・ニュースクール

「CRマッキントッシュと日本」

建築史家　鈴木　博之

「アート・ラバーズ・ハウスについて」

建築家　　木村　博昭

主催　マッキントッシュソサイティ日本

一週間前IFI'93グラスゴーに於て多くのJID会員がマッキントッシュを研修。山田国際委員のビデオも参加し、とてもリアルであった。

③'93.10.24(日)　自由学園

「フランク・ロイドライトと教育」

建築家　エリザベス・ライト・イングラム女史（F.Lライトの孫）

主催　日本・建築ミュージアム

・予告　'94.2頃　シンポジウム

国際進出－「求められるインテリアデザイナー」

NYよりゲストを迎え、会員のワーク活動に役立つプランを企画中。候ご期待。

以　上

●中部事業支部

中部事業支部活動状況

＜第3回 3 SHOWデザインフォーラム'93＞

(社)日本商環境設計家協会中部支部＜JCD＞、環境提案協会－中部＜MESH＞、(社)日本サインデザイン協会中部支部＜SDA＞の3団体主催の標記のフォーラムに、当中部事業支部が共催。11月11日(木)午後1時～6時30分、名古屋国際センタービル別棟ホールにて、テーマ「生活とデザイン」により開催。基調講演は内田繁氏が「内田繁の世界：デザインとのかかわり方」と題して行い、又、地元デザイナーとテーマに沿ったパネルディスカッションを予定。

＜デザイン名古屋'93デザインフォーラム＞

'89の世界デザイン会議等の開催を契機として培われたデザインマインドを継承し、毎年デザインコンペティション、デザインフォーラム、デザイン展で構成された「デザイン名古屋」事業の4回目。今回は、「成熟社会のデザイン」をテーマに、10月22日(金)中区役所ホールで開催される。基調講演は、数学者森毅氏（京都大学名誉教授）が「文化の東と西」と題して行い、又、コスチュームアーティスト内藤こづえ氏、にっけいでざいん編集長森山明子氏等によるトーク＆ディスカッションを予定。同時開催としてコンペティションの第一次入選作品と中部デザイン団体協議会メンバーの作品によるデザイン展も行われる。

＜支部情報誌「NOW」の充実化＞

広報委員会・出版委員会は、支部情報誌「NOW」の充実化を図るため現在準備中。本年度内に発行予定している。

＜グラスゴー報告会＞

先にグラスゴーで行われた国際会議並びにジャパンナイトの報告会を10月16日(土)東京デザイナー学院の視聴覚教室で行う。同会議に参加した中部事業支部の会員が撮影したビデオやスライド等を中心に、体験談等を報告し、又、懇談を行う予定。

（中部事業支部長　池田　高明）

●関西事業支部

＜エコーの会＞開催

8月27日（金）、喜多俊之会員のオフィスIDKデザイン研究所にて、支部交流委員会主催の＜エコーの会＞を開催。JID会員の他に多数のデザイナーが参加、喜多氏のオフィスを埋めた。喜多氏のデザインに対する考え方、作品の解説など興味深い語りを中心に交流の場は大いに盛り上った。この会も回を追うにつれ、ますます充実したものに育っていくであろうと楽しみである。

＜グラスゴーへの旅＞

関西事業支部で企画・主催した＜国際デザイン会議参加とスコットランド・ヨーロッパデザイン視察の旅＞参加者は、9月4日成田を出発、予定のスケジュールを無事了えて、15日帰国した。

今回のツアーは、在阪デザイン団体に広く参加を呼びかけたため、総勢20名のうち約半数がJID会員外のデザイン関係者が参加し、各分野デザイナー交流の場ともなった。

７日のJAPAN NIGHTには、これらの人達も参加、パーティー盛り上げに一役かっていただいた。

国際デザイン会議開催中の各種パーティーでは、ここ数年の間に来日した海外デザイナー達とも再会、旧交を温めると同時に、95年開催のIFI名古屋での再会を約した。

マッキントッシュの作品見学を中心にグラスゴーでのスケジュールを８日で了え、９日よりウィーン組と北欧・ベルギー組に分れそれぞれ実り多いデザイン視察を行い、14日再びロンドンで合流帰国した。

＜第3回アジア・デザインウィーク大阪＞

大阪デザイン活動国際化促進協議会（在阪8デザイン団体で構成）主催の＜第3回アジアデザインウィーク大阪＞が、9月21日より24日迄、アジア5ヶ国（フィリッピン、台湾、タイ、シンガポール、ベトナム）からの参加を得て開催した。

開会式に続き、今春オープンした大阪ミナミ・アメリカ村の「ビッグ・ステップ」コークホールにて各国からのプレゼンテーションに続き、作曲家三枝成彰氏による記念講演が開催され、音楽を通しての文化論は興味深い内容であった。2日目以後、分科会や市内視察など盛沢山の内容が展開され、24日全スケジュールを完了した。

最終日にJID関西事業支部で企画した、原広司氏設計の「梅田スカイシティ」見学会は、このビルの中の話題の1つである地階の機械室「マシンズー」の色彩計画を担当した稲峰富枝氏によるセミナーなども盛り込んだため、非常に好評を博した。

（関西事業支部長　浅田　弘之）

●九州事業支部

・「熊本TATAMI」デザインメモリー

熊本のい業は、500年の歴史を持つ伝統産業であり、全国のい草生産の約80%を占める日本一の産地となっております。日本の風土が育て、日本人の生活様式を支えてきた畳が、残念なことに住宅の洋風化に伴い和室が減少し、日本文化を代表する畳に親しむ機会は、年々少なくなっています。

そこで熊本県と地元組合を中心に、技術者やデザイナーが加わり、畳の生産と販売の両面にわたりいろいろな活動が行われてきました。この機会にここ数年の活動をデザイン面を中心にレポートしたいと思います。

1990年

販促用カタログ「KUMAMOTO TATAMI COLLECTION」（A4版カラー38ページ）製作　2万部発行

1991年

第1回畳スペースデザインコンテスト開催

①住宅部門　②商業空間部門　（審査員：伊東豊雄、石井和紘、藤森照信の各氏）

1992年

「熊本TATAMI in ART '92 」開催

会場：代官山ヒルサイドプラザ、畳利用の新たな可能性を追求して、現代のライフスタイルにあった畳の活用とい草の多用途への提案展。カラー畳、箱畳、置畳、畳ベッド、円座、い草猫伏素足マット（い草緞通、八代市の畳職人・奥田拓男氏が考案し、熊日暮しの工芸展グランプリ受賞）、い草スクリーン等展示。畳製作：奥田拓男、木工：坂田雅孝、デザイン・会場構成：村田良憲。

1993年

畳サンプル帳「Wild GRASS」製作（30余種類の畳表のカットサンプル、畳縁見本、カタログ）

1994年（予定）

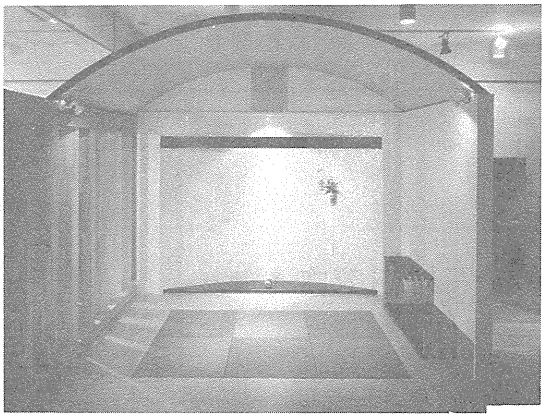
畳（い草）をとおした新しい和風の提案展

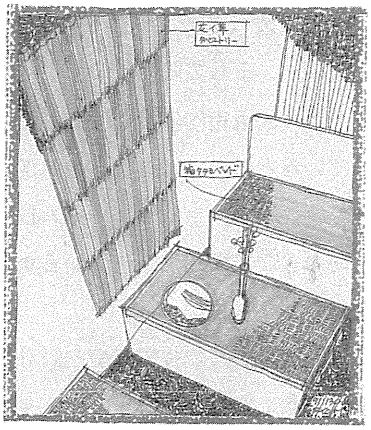
開催：東京。過去のいくつかのイベントを通して、貴重な御意見を載いた建築家、デザイナー、住宅メーカー、

ユーザーに再度会場まで足を運んでもらえるよう現在準備進行中です。千年も前から人々の暮しの中にあり、日本の国土・文化に大きな関わりを持つ畳。表（オモテ）はい草から、床（トコ） はワラから、縁（ヘリ） は布からと有機質の天然素材からなる優しさ、暖かさ、茶の間にも客間にも寝室にもなるというフレキシビリティーまさに日本人の生活スタイルに最適の床材が畳だったはずです。過剰なモノ志向への反省から、自然とのバランス、人間同志のコミュニケーションを重視した「環境」と「共生」の時代21世紀はもうすぐです。

モダン和風ともいえる生活スタイルに改めて人々の関心が集まり始めたいま、神々のふるさと九州の地熊本から、畳による新しいフロアーライフの提案をし続けるつもりです。また、92年東京晴海の「畳文化を考える」シンポジューム開催の時は、わたなべひろこ理事にパネラーとして参加載きましたが、今後の催しに際し、畳とい草に興味をお持ちの会員の方の御協力を載く事があるかもしれません。どうぞ宜しくお願いします。

（九州事業支部　村田良憲）





「熊本TATAMI」デザインメモリー

「国際家具デザインコンペ旭川 '93」に入賞して

関東事業支部会員　大阪　克彦

初秋の候会員の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度本部事務局より表記の原稿依頼がありましたのでご報告いたします。

2回目にあたる表記フェアのコンペは35カ国、1地域から応募数も前回の倍近い993点が寄せられました。締切ギリギリでしたが応募する事が出来、1次審査で入選の通知が届いた時は（入選32点、日本から3点） 書類の文面を何度も読み返し間違いではない事を確認した様なしだいです。本審査は実物出品で7月に行われたのですが、入選した事で大満足していたものですから入賞（銅賞） の通知が来た時は、しかも日本からは一人と聞きただ天にも昇る様な気持で部屋の中をうろうろしていた様な気がします。本当に幸運だったと思います。

9月9 日に旭川での受賞式当日は展示会見学と審査員諸氏によるシンポジューム参加の為に専門学校のインテリア科の学生40人を連れて行ってましたので大変緊張した中での受賞式も心強く感じましたし、「こういう事はもう二度とないかも知れないから世話掛けてる奥さんも連れて行きなさい」等と言う回りの意見や、真面目にやってる所もたまには見せようかと女房も連れて行ったりしました。

800人の大レセプションでは外国人受賞者の方々とも親しく歓談する事が出来ました。私が札幌の住人という事もあって札幌や旭川のJ.I.D会員の方々から暖かい祝福をいただき本当にうれしかったのですがステージ上で挨拶をさせられた時は心臓の鼓動を自分の耳に聞きながらもなんとか言葉になった様です。東京と大阪の二人の日本の入選された方にもお会いする事が出来ました。お二人とも若い方でしたがJ.I.D会員ではないそうです。

2日目は展示会場に於いて地元のメーカーの方々に対する商品化へのプレゼンテーションを入賞者がそれぞれ行ったのですが、業界全体の状況も芳しくないせいか私の場合は具体的な反応としては今いちでした。商品化が開催地旭川で出来る事を理想と考えていましたが、無理であれば何カ所か他からと思っています。

作品については応募にあたって次の様な事を考えました。

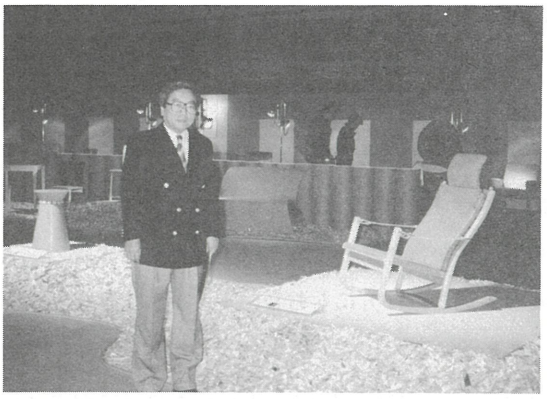
否応なしに来る高齢化社会の問題は人ごとではなく（まさしく自分も当事者の一人）、デザイナーとして何か出来る事はないだろうかといつも思っているわけですがコンペを機会に、高齢者にも使い易い「人間工学的に満足した、親しみがあって飽きの来ない美しいフォルムの椅子」を目標に、一見オーソドックスではあるかもしれないが基本をみつめ直した、ジャズに例えるとスタンダードナンバーになりうる様なデザインを意識したパーソナルチェアーにしました。革ベルトでのリクライニング操作のアイディアは18年前から考えていたもので完全なオリジナルだと自負しています。

いずれにしましても日本からの応募300点を代表しての入賞を本当に誇りに感じていると同時にやって来た事に多少の自信を持つ事が出来ました、誠に感謝の気持でいっぱいです。これを糧として日頃に於いても少しでも良い仕事が出来る様心掛けて行くつもりでおります。本当にありがとうございました。

最後になりましたが会員の皆様の、益々のご活躍を心からお祈り申し上げ乱文ではありますがご報告といたします。

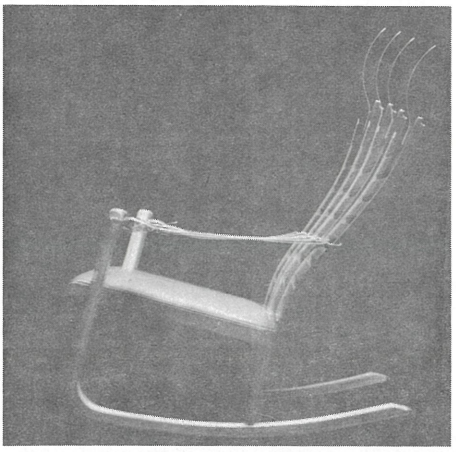
グランプリ－デンマーク、金賞－ドイツ、銀賞－フィンランド・アメリカ、銅賞－デンマーク・ドイツ・日本、審査委員長特別賞－オランダ、

審査委員　宮脇　檀、喜多　俊之、アンティ・ヌルメスニエミ、マイケル・マッコイ



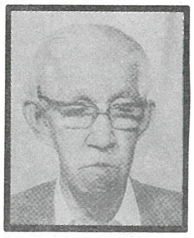
入賞した大阪克彦会長

受　賞　作　品



同作品側面

名誉会員
故石川四郎さん



昭和27年頃、レイモンド事務所が大阪での最初の設計が、心斉橋筋の不二屋のパーラーであった。その家具に始めて、フォーマイカ（メラミン化粧版）、椅子の詰物にフォームラバー、そして張地にデュポンのビニールレザー、それを当時大阪市内の小林町にあった内外木材工業で製作していると聞き、競合する企業（大丸）に居た私が、厚かましくも見学に訪れた。その時親切に案内、説明をいただいたのが斉藤四郎（何時からか石川と改姓された）さんであった。

やはりその頃、石川さんの提唱で室内設計技術研究会といふのが組織され、職域・職種をこえて文字通り、インテリア設計の技術的な研究が持たれて居た。書き込み寸法は勿論、尺・寸の時代である。そして昭和34年のJI

Dの前身である室内設計家協会大阪支部（当時は関西支部といわなかった）の結成には研究会のメンバーが中心となり50名近い設立会員になったように思ふ。5月の支部創立総会の会場はやはり石川さんのお世話で、梅田新道のエーワン・ベーカリーであった。

いろいろと思い出される。協会の会合にはかゝさず出てこられた。「痩軀鶴ノ如シ」の言葉通り長身で、何かステッキを持つと一番似合いそうな方であった。

東京高等工芸、木材工芸科（現千葉大工学部）を出られ昭和10年大林組の直営工場である内外木材工場㈱に入社、42年に常務取締役で退任後は顧問として、今日まで一生を木工技術の向上・普及にかかわってこられた。豊富な経験と、何んといってもそのお人柄が、関西の家具業界（製造、卸、小売を含め）の中心的な存在であった。

5年程前の支部の総会に出席され懇親会は「少し疲れたから帰ります」と離席されたのが私にとって最後となった。

石川さんを私達は何んとなく「お手本」として居たような気がする。

平成5年9月6日没　　享年89才

ご冥福を祈る。

（川崎　浩）

関連団体の動き

●日本デザイン団体協議会

通産省が認可した社団法人のデザイナー団体としてJIDの他に、日本インダストリアルデザイナー協会、日本グラフィックデザイナー協会、日本クラフトデザイン協会、日本ジューリーデザイナー協会、日本パッケージデザイン協会の5団体が加盟していますが、去る7月1日付で社団法人となった下記2団体が新たに加盟し、8団体となりました。

・㈳日本デイスプレイデザイン協会

（会長）寺澤　勉　　（事務局長）山本　健司

〒113 東京都文京区白山1-37-6東信白山ビル

☎ 03-5689-7951　　(FAX) 03-5689-7952

・㈳日本サインデザイン協会

（会長）伊東　寿太郎　（事務局長）境野　昭雄

〒113 東京都文京区湯島4-8-15 CCセンター

☎ 03-3818-5837　　(FAX) 03-3818-1291

現在同協議会では、著作権や会員の福利厚生等の問題について共同で研究をすゝめております。

会員の消息

◇　嶋　佐知子

冷夏の八月をいかがお過ごしでいらっしゃいましたか。

私は十年程前より、住宅・都市整備公団の提案型住宅をデザインしております。一昨年より、同公団の平成七年入居予定の高齢者向けの年金住宅・介護専用施設のプロジェクトにも参加しています。今回、このシニア住宅のモデルハウスが、八王子の公団試験研究所に完成しました。

公団の方々とお打合せしながら、コンセプトから基本設計・インテリアデザインまでといつもと同じやり方でしました。

プレス発表は9月8日、一般公開は10月20日・21日（試験研究所開所30周記念事業の一貫として公開されます）です。

実は9月10日にNHK総合で朝の7:30～8:00の間、11日は8:30～9:30で同じくNHK“くらしの経済”の中で取り上げられることになりました。実際の住戸の一つをモデルにしていますが、まだ改良すべきところもあり、御覧下さってご批評願えれば幸いです。

尚、来年三月に高齢者関係の本を出版致します。

（関　東）

◇　伴　　充　弘

梅雨明けの夏空の待たれます候。御活躍のこととお慶びを申し上げます。

このたびは大変名誉ある“特別賞”を拝受させて戴きまして篤く御礼を申し上げます。職人衆の皆さんと共に一層精進致すべく決意も新たに励んで居ります。

本日インテリア和紙見本帖彩　一冊、日本のしつらえ　一冊、江戸からかみ　一冊、伝統の襖ビデオ　一本、和紙のすまいビデオ　一本

いづれも“特別賞”関連の作品と弊社カタログと送らせて戴きます。先生方の御高覧を仰ぎまして伝統的な職人の手仕事への一層の御理解を賜りますれば幸甚と存じます。

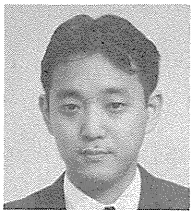
今後共　御指導を賜わりますようどうぞ宣敷く御願い申し上げます。

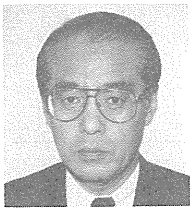
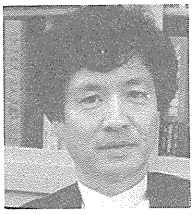
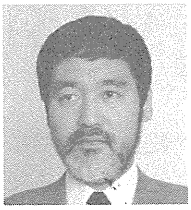
平成五年七月

東京松屋　伴　充弘（賛助会員）

新入会員の紹介

●正会員

会員名及び番号		住所及電話
のぐち まり 野口真里 会員番号1048 	＜勤務先・事務所＞ ＜自　　宅＞ ＜推　薦　者＞	共立コミュニケーションズ㈱ 神奈川県横浜市磯子区中原1-4-2　〒235 TEL 045-774-7221 FAX 045-774-7226 神奈川県横浜市港南区港南5-12-22-601　〒233 TEL 045-844-7246　FAX 045-846-2387 山下　博之・斉藤　武行
おがわ かずひこ 小川和彦 会員番号1049 	＜勤務先・事務所＞ ＜自　　宅＞ ＜推　薦　者＞	北九州職業能力開発短期大学 福岡県北九州市小倉南区大字志井1665-1　〒803 TEL 093-963-0125 FAX 093-963-0126 福岡県京都郡苅田町大字尾倉3351-6、201号　〒800-03 TEL 093-436-0168 北村　新比古・石井　信義
やすこうち あつこ 安河内敦子 会員番号1050 	＜勤務先・事務所＞ ＜自　　宅＞ ＜推　薦　者＞	㈱意匠計画 東京都目黒区中目黒5-24-27　〒153 TEL 03-3793-8052 FAX 03-3793-4197 東京都目黒区中目黒5-24-27 TEL 03-3715-2425 谷本　邦彦・松原　文子
しばた ひろこ 柴田弘子 会員番号1051 	＜勤務先・事務所＞ ＜自　　宅＞ ＜推　薦　者＞	㈱ア・レックス 東京都渋谷区渋谷2-2-6 AWAビル2F　〒150 TEL 03-3498-0630 FAX 03-3498-1497 東京都渋谷区渋谷2-2-6 AWAビル8F　〒150 TEL 03-3406-0210 浅野　盛治・中川　帛子

会員名及び番号		住所及電話
まつばら　のぶよし 松原伸介 会員番号1052 	＜勤務先・事務所＞ ＜自　　宅＞ ＜推　薦　者＞	安井建築設計事務所 東京都千代田区九段南4-8　山脇ビル　〒102 TEL 03-3261-5101 FAX 03-3264-3935 東京都中野区上高田2-44-5ハピネスハウス201　〒165 TEL 03-5380-3071 判治　泰蔵・布施　研二
なかじま　たつおき 中島龍興 会員番号1053 	＜勤務先・事務所＞ ＜自　　宅＞ ＜推　薦　者＞	ハロデザイン研究所 東京都墨田区両国2-1-7-202　〒130 TEL 03-3632-2234 FAX 03-3632-2278 埼玉県朝霞市本町1-16-24　〒351 TEL 0484-64-0957 大野　美代子・今井　壮一
いしはら　かおる 石原　薫 会員番号1054 	＜勤務先・事務所＞ ＜自　　宅＞ ＜推　薦　者＞	石原デザインハウス 大阪市北区本庄東2-2-28-1103　〒531 TEL ・FAX 06-374-3910 大阪市北区本庄東2-2-28-1103　〒531 TEL ・FAX 06-374-3910 山口　道夫・近沢　晴雄
すぎうら 杉浦ふさえ 会員番号1055 	＜勤務先・事務所＞ ＜自　　宅＞ ＜推　薦　者＞	㈲ラ　ダ 愛媛県松山市古川北4-13-7コーポ有光1F　〒790 TEL 0899-58-6181 FAX 0899-58-6182 愛媛県松山市針田町94-13　〒790 TEL 0899-72-2965 嶋　佐知子・飯田　公久

●賛助会員

会　社　名		住　所　・　電話　及び　担当者
株式会社　東京松屋	住　　所	東京都台東区東上野5-4-14　〒110 TEL 03-3842-3785　FAX 03-3842-3820
	担　当　者	専務取締役　伴　充弘
	紹　介　者	山本　其観代
社団法人 インテリア産業協会	住　　所	東京都新宿区新宿3-13-5　クリハシビル　〒160 TEL 03-5379-8600　FAX 03-5379-8605
	担　当　者	専務理事　岩片　武史
	紹　介　者	浅野　盛治
パラマウントベッド 株式会社	住　　所	東京都江東区東砂2-14-5　〒136 TEL 03-3648-1173　FAX 03-3648-1110
	担　当　者	開発本部統括室　室長　武内　寛
	紹　介　者	長岡　貞夫

「デュポン　コーリアン®・デザインコンテスト」
施工例募集のお知らせ

MRC・デュポン株式会社（本社：東京都港区、賀集健二社長）はこのほど「デュポン　コーリアン®・デザインコンテスト」の今年度の作品公募を開始しました。

第８回目となる今回のコンテストは、同社の高級インテリア素材、デュポン　コーリアン®を採用した最近の施工例について「デュポン　コーリアン®が創る21世紀の快適空間」をテーマに公募するものです。この素材の独自の特性である硬質木材なみの加工性のよさ・曲げ加工・継目の目立たない独自の接着技術などをいかした新しい使い方や、深みのある美しい色合いをいかしたデザイン例を募集しています。

今年は特に、一般住宅のリフォーム用途で採用された例（キッチンワークトップ、洗面カウンターなど）に関して積極的に募集を行います。これはデュポン　コーリアン®が米国で発売25周年を記念して昨年から行われている消費者向けキャンペーン「LIVING WITH THE BEST」の一環として実施するものです。

＜募集概要＞

●募集期間：平成５年９月１日～平成５年12月31日まで

●申し込み方法：

実際の設計図面及び写真をA1のイラストレーションボードに張って、規定の応募申し込み用紙と一緒に提出。
（ただし平成４年４月から平成５年12月までの間に施工が完了した未発表の物件に限ります。）
応募要領および申し込み用紙は、電話または郵送にて下記の応募先までお申し込み下さい。

●応募先：〒102　東京都千代田区飯田橋１－８－１０
㈱研成社　デュポン　コーリアン®キャンペーン事務局
℡ (03)3230-1860　FAX(03)3230-1922
担当：柳・山木

●賞金：金賞一名50万円ほか総額200万円

※®は米国デュポン社の登録商標です。

会員の異動

※会員名簿1993～1994版からの異動を掲載しております。

会員名	異動事項	新
青木　昭夫 （関東　P45）	勤務先　住所 自宅移転	東京都中央区入船3-2-10　アーバンネット入船ビル 〒104 TEL 03-3566-5512　FAX 03-3551-2052 横浜市港北区南山田1-3-12-203　〒223 TEL 045-593-5934
浅尾　町子 （関東　P46）	事務所移転	東京都三鷹市下連雀3-33-2-303　レクセル三鷹
石井　三雄 （関東　P50）	事務所移転 部署移動	神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1-1 横浜ランドマークタワー　〒220-81 快適環境デザインチーム TEL 045-224-3520　FAX 045-224-3539
石沢　洋生 （関東　P51）	勤務先	システム　オー　デザイン　アソシエイツ 東京都目黒区上目黒3-36-27　〒153 TEL 03-5271-2340　FAX 03-5271-2339
金杉　哲男 （関東　P70）	事務所移転	東京都港区南青山3-8-4　第3高野マンション3F C2 〒107
川上　信二 （関東　P71）	事務所移転	東京都港区元麻布3-4-23 A.R.T.元麻布 1F　〒106 TEL 03-3443-0242　FAX 03-3443-3834
川上　玲子 （関東　P71）	事務所移転	東京都港区元麻布3-4-23 A.R.T.元麻布 IF　〒106 TEL 03-3443-0242　FAX 03-3443-3834
坂巻　さつき （関東　P82）	改姓 事務所退社 自宅移転	阿部　さつき 神奈川県横浜市神奈川区高島台6-1　〒221 日水 高島台アパート B-12号 TEL 045-324-3916

菅野　和弘 （関東　P90）	事務所移転	東京都豊島区南池袋2-16-8　藤久ビル6F　〒171 TEL 03-3987-1301　FAX 03-5951-2369
竹中　幸雄 （関東　P99）	自宅・新規 FAX	045-625-6688
田島　憲悟 （関東　P99）	自宅移転	神奈川県横浜市南区六ツ川3-85-6　パークタウン J-1104
當山　建道 （関東　P104）	事務所移転	東京都港区麻布十番1-8-5　ハニーハイツ麻布502 TEL 03-3586-7012
徳丸　裕子 （関東　P105）	転勤	㈱イトーキ　公共施設営業部　公共施設デザイン室 東京都中央区入船3-2-10　アーバンネット入船ビル　〒104 TEL 03-5566-7441　FAX 03-5566-7080
船橋　千枝 （関東　P122）	自宅・事務所 号数表示	東京都目黒区目黒4-21-15
細田　京子 （関東　P124）	事務所移転	東京都世田谷区弦巻1-36-8　〒154 TEL 03-3429-8976　FAX 03-3429-0105
牧野　　滋 （関東　P125）	自宅移転	東京都東村山市本町1-11-15　〒189 TEL 0423-91-6994　FAX 0423-91-6964
丸山　芳子 （関東　P128）	勤務先 TEL 自宅移転	03-3987-8301 東京都豊島区千早3-11-1 第一小山コーポ201　〒171 TEL 03-3959-3555
渡辺　英行 （関東　P145）	事務所移転	東京都港区六本木3-16-33　〒106 TEL 03-5573-2507　FAX 03-5573-2451
齊藤　義男 （中部　P152）	自宅移転	石川県金沢市米泉2-77 ユカタマンション202　〒921 TEL 0762-45-4604
坂田　守正 （中部　P153）	事務所・自宅 住居表示変更	福井県福井市和田中1-1912

秋田　純孝 （関東　P163）	勤務先移転 部署名	大阪府大阪市浪速区日本橋3-5-25 高島屋東別館 〒556 建装事業本部設計部関西設計室
多羅尾　光明 （関西　P177）	事務所開設	㈱インターデザイン一級建築士事務所 京都府京都市中京区麩屋町夷川上ル東側　〒604 TEL 075-212-0063　FAX 075-212-0067
西小路　典子 （関西　P180）	勤務先 自宅移転	滋賀職業能力開発短期大学校 TEL 0748-34-8121　FAX 0748-34-8713 滋賀県近江八幡市鷹飼町8-404　〒523
山口　勝己 （関西　P189）	勤務先移転	大阪府大阪市北区角田町8-7 ㈱阪急百貨店11F TEL 06-367-3237　FAX 06-367-3219
山崎　　晶 （関西　P189）	自宅移転	兵庫県東灘区向洋町中5-11-502-1004 〒658 TEL・FAX 078-857-0767
トーソー株式会社 （賛助　P220）	担当者	商品開発室　課長 五十嵐　克史
株式会社日建設計 （賛助　P222）	担当者	大阪第二設計事務所　インテリア部長 山崎　慶昭
三井デザインテック 株式会社 （賛助　P229）	本社移転	東京都新宿区西新宿7-5-25　西新宿木村屋ビル 〒160 TEL 03-3367-3131（大代表）FAX 03-5386-7745

専門学校
日本デザイナー学院
〒150　東京都渋谷区桜丘町 4-16
TEL 03-3770-5581
宮部　覚（教務課長）

株式会社 沼崎製作所
〒612　京都市伏見区深草中川原町 5
TEL 075-541-8151　FAX 075-541-8155
田嶋 元一（専務取締役）

●事務局短信

①10月に入り、爽やかな秋晴れが続き、冷夏による農作物の収穫減が報道されたグラスゴー会議は、関係者やご協力いただいた方々のおかげでジャパナイトも盛会裡に終了、引き続き開催された第16回IFI総会席上で中川帛子理事がアジアで初のIFI理事に当選され、２年後に開催される「IFI'95NAGOYA」に向けての体制作りへ着々と前進しています。

②通産省「平成５年度デザイン功労者表彰」の功労者４名中、JIDより佐々木達三、渡邊　力両名誉理事が選ばれ、去る10月1日、デザインの日の式典で通産大臣より表彰されました。会員の皆様とともに心からお祝い申し上げます。

③次期本部役員選挙について、正会員各位には先にお知らせしたスケジュールに従い、11月中旬に投票用紙をお送りいたします。投票が過半数に満たないと開票できませんのでお手数をかけますが、候補者10名以内（１名でも有効）を選び、12月9日までにご返送下さるようお願いいたします。

④名誉理事７名が発起人となられ、JIDへの財政支援について、去る７月に名誉会員の皆様にお願いしました結果、10月初旬までに52名中37名の方々から拠金をお寄せいただきました。紙上をお借りし厚くお礼申し上げます。この拠金は寄付金収入とし、今後の事業活動に大切に使わせていただきますが、その一部で名誉会員と支部役員との懇親会を開催するよう、計画しております。

⑤関西事業支部創立メンバーの石川四郎名誉会員が去る８月７日に、また星野さちこ会員（関東）が去る７月10日に逝去されました。皆様とともに心からお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

以　上

㈱ノールインターナショナルジャパン
本　社　〒102　東京都千代田区平河町 2-6-2
ランディック平河町ビル
TEL 03-3234-0091
ショールーム　〒100　東京都千代田区丸の内 3-1-1　国際ビル
TEL 06-3213-6767
斉藤 雅博（常務取締役）

長谷虎紡績株式会社
〒501-62　岐阜県羽島市福寿町平方
TEL 0583-98-5211㈹　FAX 0583-98-5215
梶田 隆男（ＣＪ業務部長）

株式会社　ハシヤ
〒132　東京都江戸川区平井 5-21-3　ガーデン欣志ビル３階
TEL 03-3614-7700　FAX 03-3614-7707
大阪支店　06-472-5481　名古屋支店　052-241-8083
山口　清（取締役 本社企画本部長）

株式会社　パ　ル
〒541　大阪市中央区博労町 1-6-14
TEL 06-262-6913　FAX 06-262-6923
田中　寛（代表取締役）

1993/9・10

1993年10月20日発行　（社団法人日本インテリアデザイナー協会月報1991年通巻178号）

発行・社団法人　日本インテリアデザイナー協会事務局　印刷所・株式会社　ユリクリエイト
東京都渋谷区恵比寿南2-13-14　茶屋坂T&Kビル3F
TEL 03-5704-3421　FAX 03-5704-3423　振替・東京　8-76389